

東京女子大学学会 経済学部会 講演会

協力 東京女子大学 SDGs 推進委員会

ミャンマー（ビルマ）の人道危機を読み解く

—国軍の思想と経済的基盤、市民の抵抗と未来像、動きの取れない国際社会—

根本 敬先生（上智大学教授）

2022年6月28日（火） 14:55-16:25

場所：23201 教室

学外の方はオンラインで参加可

■講演要旨

ミャンマー（ビルマ）では2021年2月1日に発生した軍事クーデターから1年5カ月が過ぎようとしています。国軍により人々は殺され、逮捕され、拷問され、地方では空爆がなされ、村々が焼かれ、逃げ場のない国内避難民は数十万人に達しています。国際社会はほとんど動けず（動かず）、ミャンマーでは市民が中心となり、不服従運動と武装闘争の両面で国軍に対する抵抗を続けます。本講演ではクーデター後の実態を説明し、国軍の思想と経済的基盤、抵抗する市民の論理、市民の支持をえている国民統一政府（NUG）が描く未来像について語ります。最後に、動かない国際社会をどう動かすかについて考えます。



■根本 敬（ねもと・けい）先生

上智大学総合グローバル学部教授。専門はビルマ近現代史。1996年から4年間、本学史学科で非常勤講師を務める。『アウンサンスーチーのビルマ：民主化と国民和解への道』（2015年、岩波書店）をはじめ著書多数。

お申込みはQRコードからお願いします。

問い合わせ先：経済学専攻オフィス

economics@lab.twcu.ac.jp

